

令和4年度 指定管理施設運営状況評価表

1 施設の概要

施設の名称	障害児入所施設 はまゆり学園	
指定管理者	団体名	社会福祉法人 みちのく福祉会
	代表者名	理事長 内田大輔
	所在地	むつ市大字奥内字大室平91番地1
指定期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日	
指定管理業務の概要	1. 障害児入所支援 2. 短期入所事業 3. 日中一時支援事業	

2 収支の状況

単位：千円

区 分	計画額①	実績額②	増減 (②-①)
収入合計 (A)	136,694	104,715	-31,979
うち利用料金額	72,593	39,817	-32,776
うち指定管理料	62,629	62,629	0
支出合計 (B)	136,694	124,705	-11,989
うち人件費	76,633	73,725	-2,908
収支差 (A-B)	0	-19,990	-19,990
計画書と比較した実績額の増減理由	<ul style="list-style-type: none"> ・短期入所事業と日中一時支援事業で計画より約150万円増えましたが、契約児童の利用計画を16名で積算しており、実利用者は6名であったことから、予定よりも減収となっています。 ・支出においては、前年度までの運営結果を課目毎に精査し、その結果を踏まえつつ適切な対応を行うことで、施設維持管理費の抑制に繋がっています。 		

3 施設利用の状況

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増減(① - ②)
利 用 者 数	入 所	16	6	△10
	短 期 入 所	50	88	38
	日 中 一 時	100	568	468
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無) 【年2回実施】				
1. 児童への関わり方や接し方、支援方法や対応方法に関すること (対象者：入所児童の保護者)				
2. 行事や活動に対する評価及び改善点に関すること (対象者：入所児童の保護者)				
3. 短期入所や日中一時の利用日程に関すること (対象者：短期入所、日中一時児童の保護者)				
4. 職員同士のコミュニケーションや情報共有に関すること (対象者：短期入所、日中一時児童の保護者)				
5. 学校側との連携に関すること (対象者：入所児童の保護者)				
6. コロナ禍における施設運営に関すること (対象者：入所児童の保護者)				

単位：人

4 自主事業の実施状況

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、検討の結果、未実施となっています。

No	事 業 名	事業内容	利用者数	収 入	支 出
1	障害児入所施設に関する説明会	障害児に関わる方を対象に、はまゆり学園のサービスについて知る機会を設け、サポートに役立てていただく。	0	0	0

単位：人・円

5 個別項目評価

評価基準

A：(優良)：計画された業務水準を大きく超える、独自の取り組みを実施するなど、特に目覚ましい効果があった。

B：(適正)：計画された業務水準をおおむね達成した。

C：(要改善)：計画された業務水準を達成できなかった。

評価項目	自己評価	下行評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取り組み状況		
① 開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
② 施設の使用許可等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③ 利用者に対する接客マナー等職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④ 利用者の意見を聴取し、それらを反映する取り組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取り組み状況		
① 施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
② 潜在的な利用者等に営業活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③ 自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。 新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施できず評価は空欄としています。		
(3) 効率性の向上に関する取り組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取り組みを行い効果があつたか。	B	B
② 収入増を図るための取り組みを行い、効果があつたか。	B	B
③ 職員の資質・能力向上を図る取り組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取り組み状況		
① 施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であつたか。	B	B
② 設備・備品の維持管理及び修繕が適正に行われたか。	B	B
③ 労働関係法令を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④ 利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であつたか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取り組み状況		
① 利用者が平等利用できるよう利用情報提供の配慮をしたか。	B	B
② 日常の事故防止等の安全対策は適正であつたか。	B	B
③ 防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であつたか。	B	B
④ 利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6 指定管理者総合評価

令和4年度の入所児童数は9名。新規入所児童もなく、入所児童は過去最少人数での事業運営となりました。一方、短期入所や日中一時支援事業を新規で利用することとなった児童が多く、相談支援専門員と定期的に情報交換を行い、サービスを必要とされている皆様へはまゆり学園について情報提供をしていただいたことがきっかけで利用開始につながったものと考えております。

また、むつ養護学校と連携し、学校見学に来られた多数の児童・ご家族に、はまゆり学園にも足を運んでいただき施設見学を実施したことで、学園のことを知っていただく機会を作り出すことが出来たと感じております。

入所児童におきましては、卒園児4名全員の移行先が無事決まり、3名が一般就労、1名が就労継続支援B型事業と新たなステージへ向かうこととなり、全員笑顔で卒業式を迎えることができたことにとっても安堵いたしました。同時に今後卒園を迎える児童の就労の場・生活の場・住まいの場の選択肢や社会資源が枯渇しつつある現状や、利用児童だけではなくご家族も含めたトータル的なサポートの必要性など、地域を取り巻く課題に直面した1年でもありました。

新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策において、利用児童には様々制限を強いることとなり、夏祭りやクリスマス会などコロナ禍前まで盛大に開催していた行事は今年度も縮小しての開催となりましたが、工夫を凝らし前年度以上に楽しんでいただけるよう企画に広がりを持たせ考え抜いた結果、児童の普段とはまた違う笑顔や喜ぶ姿を見ることが出来ました。また、数年ぶりに園外活動を実施しましたが、市外へのバス外出は感染状況の悪化に伴い数日前に中止の決断をするなど、100点満点の活動を実施することは出来ませんでした。100%の想いを持って児童と想いを共有してまいりました。

短期入所や日中一時支援事業の運営に際し、児童や職員の新型コロナ罹患の他、濃厚接触者として認定されるなど状況に応じて利用の受け入れをお断りさせていただくケースもございましたが、ご家族の皆様のご理解や、アドバイスをいただいた行政のご協力のもと、大きな広がりを見せることなく収束にいたることが出来ました。

はまゆり学園は、むつ・下北圏域における唯一の障害児入所施設であり、児童福祉サービスの大きな拠点である他、緊急一時保護としての機能も持ち合わせており、その役割を決して忘れることなく、地域ではまゆり学園を必要とされている皆様の期待に応える力強い施設づくりを目標として掲げ、その実現に向けて職員一丸となって力を尽くしてまいりましたが、受け入れ態勢や送迎の面など、残念ながら全ての皆様に満足いただける結果とはなりません。日々の皆様からの会話やアンケート結果をもとに、令和5年度はより高度なサービス提供、より心豊かな施設運営を目指してまいります。

最後になりますが、今後とも学園に温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。令和4年度のご報告とさせていただきます。

7 下北地域広域行政事務組合の総合評価

指定管理第3期の1年目に当たる令和4年度は新規入所児童がいなかったことから、県支出金等の収入が当初計画より大幅に減少していく中、経費削減に積極的に取り組まれたほか、新型コロナウイルス感染症の予防対策を実施しながらも、むつ養護学校と連携し、学校及び施設見学を行い、利用を検討される児童・保護者へ情報提供を行っておりました。

また、短期入所及び日中一時支援事業の利用については、相談支援専門員との情報連携を積極的に実施し、サービスが必要とされる方への情報提供を行った結果、新規に利用を開始されるケースが多く見受けられました。

令和4年度末に卒園された児童全員が一般就労あるいは就労継続支援B型の利用に繋げることができたのは、むつ養護学校との連携のもと、卒園児への親身に寄り添った指導を行ったこと、及び保護者への丁寧な説明とサポートを実施されたことの結果によるものと敬意を表します。

はまゆり学園は、むつ・下北圏域唯一の障害児入所施設であり、児童福祉サービスのみならず緊急一時保護施設の機能も担っており、必要不可欠な施設であることから、今後も引き続き、児童の安全に最大限留意し、関係機関と連携しながら専門性の高い効果的な施設運営を行っていただきますことを望みます。